

Blue Tie Wind Ensemble 演奏会

2022年11月29日（火）洗足学園音楽大学

前田ホール 開演 18:30 開場 18:00

演奏：ブルー・タイ ウィンド・アンサンブル



指揮者：松村 秀明



曲目

W.H.ヒル／セント アンソニー・ヴァリエーションズ

A.リード／エルサレム讃歌 アルメニアの復活祭の賛歌による変奏曲

V.ネリベル／交響的断章

K.フサ／プラハのための音楽 1968

* 新型コロナウイルスを防ぐためのお願い

- ・マスク着用の徹底、こまめな手指消毒、手洗い、咳エチケットの励行にご協力ください。
- ・大声や対面での対話での会話はお控えください。
- ・演奏者への声援はご遠慮いただき、拍手のみとしてください。
- ・休憩時、終演後はスタッフが扉を開けるまでお待ちいただき、空いているドアから混雑を避けて入退場してください。
- ・客席内やロビーでのご飲食はお控えください。・出演者への面会はできません。出演者への花束
- ・プレゼントもご遠慮ください。・万一、集団感染の発症が明らかになった際は、保健所に入退場の情報を提供する場合がございます。

主催：洗足学園音楽大学・大学院

ご挨拶

本日はご来場くださりありがとうございます。

今日の演奏会は2022年度 洗足学園音楽大学 ブルー・タイ ウィンド・アンサンブルの集大成と言えます。

2年生から4年生の学生によって組まれる吹奏楽団のブルー・タイは当然 毎年メンバーが少しずつ入れ替わりながら活動を続けております。しかしながら演奏にかける情熱は変わりません。今回は更に松村秀明先生の熱い思いと共に皆様に音楽をお届け出来ると思います。曲目はオーソドックスな曲からシリアスなものまで有りますが、どうぞ最後までお聴きください。

ブルー・タイ ウィンド・アンサンブル
企画運営責任者 渡邊 功



Program

W.H.ヒル／セント・アンソニー・ヴァリエーションズ
William H Hill(1930-2000)／Saint.Anthony Variations

A.リード／エルサレム讃歌 アルメニアの復活祭の讃歌による変奏曲
Alfred Reed(1921-2005)／Praise Jerusalem!

Intermission

V.ネリベル／交響的断章
Vaclav Nelhybel(1919-1996)／Symphonic Movement

K.フサ／プラハのための音楽 1968
Karel Husa(1921-2016)／Music for Prague 1968

曲目解説

W.H.ヒル／セント・アンソニー・ヴァリエーション

1979年にウィリアム・H・ヒル(1930~2000)によって作曲されたこの曲は、アメリカ、カリフォルニア州モデストにある、トーマス・ダウニー高校への委嘱作品である。17世紀の聖歌、「セント・アンソニー」が主題として用いられており、他にも、ハイドンによる木管重奏やブラームスによる変奏曲にも同じ主題が用いられる。日本では1985年、吹奏楽コンクールでの天理高校の演奏により一躍有名になり、そのコンクール用カットバージョンが「天理版」として出版され、親しまれている。金管楽器による華やかな序奏によって幕を開け、木管楽器による静かで美しい変奏、変拍子のある舞曲風な変奏を経て、パーカッションアンサンブルから始まる激しさをもった変奏を迎え、終章に突入していく。ドラマティックな曲の展開に是非注目してお聴きいただきたい。

打楽器 4年 入江美咲

A.リード／エルサレム讃歌 アルメニアの復活祭の讃歌による変奏曲

アルフレッド・リード(1921-2005)はアメリカの作曲家、指揮者。特に吹奏楽においては、20世紀を代表する音楽家の1人である。本日演奏する作品「エルサレム讃歌」は、序奏、主題、変奏、フィナーレの構成になっており、作曲家・指揮者として活躍する中、彼の吹奏楽作品「音楽祭のプレリュード」が1970年の全日本吹奏楽コンクールで課題曲となり、日本で人気を博す。その後も何度も日本で指揮、指導を行い、洗足学園音楽大学の客員教授も務めた。変奏は全部で5つ。「アルメニアの復活祭の賛美歌に基づく変奏曲」という副題もあり、7世紀頃の賛美歌がモチーフの作品である。賛美歌のテーマが序奏で朗々と歌われ、力強く、劇的に始まる。その劇的なテーマが段々と静かになり、主題提示部に入り、木管楽器を中心に、美しい主題が奏でられ、この荘厳な美しさを持つ主題は、弦楽器のない吹奏楽という形態では、いっそうその厳格さを増す。この曲の魅力は、曲全体を通して、「復活」というテーマが非常に厳格かつ感動的に描き出されていることだ。序奏では「復活」の奇跡に震撼する大地と人々が描かれ、フィナーレでは「復活」の奇跡を序奏以上に輝かしく讃える。

フルート 4年 金巻未悠

V.ネリベル／交響的断章

ヴァーツラフ・ネリベルはチェコスロバキア出身のアメリカ合衆国の作曲家である。曲の多くは管楽器あるいは吹奏楽で、学生演奏者の為にかかれた。楽曲はアメリカ・ノースウェスタン大学バンドと指揮者ジョン・ペインターの為に1965年に作曲された。簡潔な構成と強い個性を持つネリベルの代表作である。ドの音の強奏から始まる序奏はとても印象的かつ緊張感にあふれており、ここで提示されるC-Es-E-A-B-Des-Ges-Gの八音は全曲を支配する中心動機となる。中間部はテンポを落とした打楽器を中心に展開し、再びアダージョとなったコーダでは、基本動機の和音を奏する金管楽器と、そこに含まれない四音を奏する木管楽器とが対比され、荒々しく終わる。ネリベルの語法の特徴である強大なユニゾン、強弱や各楽器の音色の極端な対比、執拗に繰り返すさまがここでは著しく現れている。

クラリネット 4年 中田紫乃

K.フサ／プラハのための音楽1968

1950年頃からアメリカに渡り、1959年に市民権を取得していたフサが、1968年1月に祖国チェコスロヴァキアで始まった「プラハの春」と呼ばれる社会主義の改革運動が8月20日夜のソ連率いるワルシャワ条約機構軍侵攻による軍事介入で制圧された、いわゆるチェコ事件を知り、怒りや悲しみなど当事件に対する感情を音楽で表現したこの作品を書いた。百塔の街と呼ばれたプラハを表す鐘の音、ピッコロで演奏される自由を象徴する鳥の声を主要な動機とした4つの曲からなる。

第1楽章はこれから襲い来る悲劇の予告である。この楽章は事件の全体像を凝縮させている。第2楽章は軍に襲われる直前の深夜の不安を描いている。第3楽章はパーカッションだけで奏でられる、強烈な断章。スコアには「pから始めて、ほとんど耐えられない大きさまでクレシェンドする」という、驚くべき指示がある。ここから曲はアタッカで、そのまま第4楽章に突入する。第4楽章。激しい全奏は、まさに軍によって蹂躪される様子を描いているかのようだ。

複雑なリズムが交錯し、音楽は頂点に向かう。

トロンボーン 3年 佐藤頼星



ブルー・タイ ウインド・アンサンブル

Senzoku Gakuen College of Music Blue Tie Wind Ensemble

洗足学園音楽大学では、「演奏の洗足」と掲げ、年間約200回の演奏会を開催。中でも「吹奏楽研究」においてはたいへん力を入れており、4つの吹奏楽団体が企画運営責任教授、指導教員の指導の下、日々研鑽を積んでいる。

1年生だけのフレッシュマン・ウインド・アンサンブルと、其々着用するネクタイの色で呼ばれている上級生バンドのグリーン・タイ ウインド・アンサンブル、ブルー・タイ ウインド・アンサンブル、そして洗足学園音楽大学を代表するフラッグシップバンド、洗足ウインド・シンフォニーの計4つである。

記憶に新しいところでは、2012年第66回ミッドウエスト・バンドクリニックにおいて、ブルー・タイ ウインド・アンサンブルがジェリー・ジャンキン、池上政人各氏指揮の下、大成功を収めた。

ブルー・タイ ウインド・アンサンブルは管打楽器コースの2～4年生で構成され、渡邊功講師が中心になり企画運営している。吹奏楽のオリジナル曲、オーケストラの編曲作品、最新の音楽を区別する事なく積極的に取り入れ意欲的な活動を展開している。

ブルー・タイ ウインド・アンサンブル 後期演奏会メンバー表

Concertmistress	上條 里彩				
Flute	金巻 未悠	酒井 瑠菜	田嶋 智翠	筒井 さくら	清 友菜
	鈴木 彩良	松崎 まり	宮内 菜歩	鎌仲 思実	
	TRANNGUYEN BAOTRAN		末永 愛翔	村松 なごみ	
Oboe	橋本 あみか	小林 知永*	田中 詩穂吏*		
Clarinet	大木 舞	上條 里彩	中田 紫乃	長島 太一	北池 莉々夏
	佐々木 音美	関田 稜祐	石山 穂乃花	大竹 彩音	岩政 志穂*
	興野 ねね*	高松 真紀*	松本 玲香*	山形 珠慧*	
Bassoon	鹿山 唯	長谷川 舞花	宮原 彩*		
Saxophone	岡本 彩花	加藤 舜理	酒井 優希	中條 花音	長谷川 愛美
	山中 杏実	竹内 勇人	加藤 裕貴	QIU QI	高矢 真優
Horn	半崎 愛理	金井 亮介	中野渡 真咲	PAN JUNLIANG	神野 了丞*
Trumpet	宇津木 清来	江原 春香	加藤 早弥乃	錦古里 愛	濱田 ほむら
	藤田 雄大	鹿野 円香	井上 瞳	武田 倅奈	福山 桃花
	森本 優生	谷中 彩乃			
Trombone	林 剛潤	平野 結梨香	裏木 りりあ	佐藤 頼星	近藤 慶一
	永野 宏弥♪				
Euphonium	加藤 千聖	大島 成実	片桐 すみれ		
Tuba	豊田 真悠子	吉海 風龍	澤田 翔也	高島 佳樹	金子 優也
	峯永 岳志				
Contrabass	小林 稜*	平木 晶穂*			
Percussion	入江 美咲	大塚 愛美	岡澤 七海	金正 紗也加	佐藤 綾香
	杉本 裕香	丹 健汰郎	中嶋 遼	星 陽華	前田 歩都
	山野 智広	渡邊 拓斗	浅井 惇	内田 光太郎	岡崎 颯太
	田村 夢佑亜	廣瀬 歌菜	宮下 真凜	三好 花梨	渡辺 歩紀
Harp	森 真由美*				

♪…学生賛助 *…演奏補助要員

企画運営責任者	渡邊 功				
トレーナー	飯吉 高				
指導教員	前田 綾子	渡部 亨	田淵 哲也	宮村 和宏	新井 清史
	郡 尚恵	中村 めぐみ	中舘 壮志	中田 小弥香	大貫 比佐志
	貝沼 拓実	田村 真寛	上間 善之	小林 祐治	久永 重明
	神代 修	林 辰則	中山 隆崇	尹 千浩	菅 貴登
	府川 雪野	岩黒 綾乃	福田 昌範	次田 心平	秋田 孝訓
	小川 佳津子	野本 洋介			
インスペクター	大塚 愛美	加藤 千聖	金巻 未悠		
助手	土屋 莉帆				
アカデミックコーディネーター	古川原 裕仁				